

風は話を作る

2009年1月、本来なら新年のご挨拶を申し上げるところであるが、前任の吉武淳介先生が2008年10月に急逝されたため、喪に服しているところです。・・・若い頃からのいろんなことを思い起こせば、人生の節目々々に現れ、幾度となく指針を示していただき、かなたに曙光が見えるところまで導いてくださった方である。30年も一緒にいれば、ともすれば家族よりもわかってもらえることも数限りなくあり、現在も今後の方向についても教わるところが多かった大先輩である。小生今日あるは、この人を措いて考えられない。

さて、インフルエンザ・ワクチンのシーズンも終わりかけている。今年も昨年同様、すべての人の接種を小生がした。すでに幾度も述べてきたが、看護婦の方が上手と勘違いしている人々に知らしめる意味もあるのだが、要するに小生が行えば「より痛みを感じる事が少ないだろう」という目的からである。すると、阪大病院では、とかどこそこの診療所では・・・などと「教えてくれる」親切な方もいるのであるが、余計なお世話である。阪大病院など、注射が下手な医者が最も多い病院である。比べられることさえ不本意である。

あるいはよその診療所でどういう方法をとろうと、オレのやり方を変える必要を感じるところがないから無視しているだけである。中学生や高校生の女の子が、「フワー、いっこも痛なかった」とつぶやくのを聞くだけで満足なのである。つまりは「ありがとう」を言ってくれているようなもの。注射を痛くないようにしようという努力すらしないのが普通の医者なのである。・・・憚りながら、小生、去年より技術的には上達しています。

兵庫県柏原市だったか、小児科の医者が全員怒ってしまって辞任するという。母親たちにとっては死活問題だろうが、医者から見ても「死活問題」なのである。自分の身体を酷使してまでそこにいなければならない義務はないし、当然のように夜中に叩き起こされる。挙句、誰やらが言ったらしいのだが「志が低い」などと、たしかに馬鹿らしい話である。母親たちは必死になって居残るように頼み、**自分たち**を改革しようと努力した。アホに「献身」だとか「収入のためになったのだから？」などといわれると、**いっぺんかわってやろうか！** おまえたちの何の意味もないニュースを聞いているほうが余程無意味なことである。キミたちの意見はいらないよ、どうせ視聴者に迎合することしかコメントできないのだから。

で、件の小児科連中は結局熱意に負けて残る方を選択したのだが、当然要求はする。たとえば、さほど重症でもないのに夜中に来院したりするようなバカなことをしないなどである。いくら「素人だから」といっても、自分の子供のことはではないか。少しは勉強してあるいは経験することで自ら向上することを考えてみたら？　そして最後の約束。これは小生も声を大にして言いたい。「ありがとう」と言おう。・・・当然といえば当然のことなのだが、そんな知恵・常識さえ持っていない母親が子供の躰をする方が怖いわ。

それはそうと、ある会社で、「診療所の医者（つまりワタシのこと）が死んだらしいで」という噂が乱れ飛んでいたらしい。その理由もいくつもあるのだが、すべてわかっている。ワクチンの注射にきた女性が、びっくりして「エッ！生きてるやん！？」・・・「アン？」わけを聞いて大笑いでした。そう、「風は話をつくる」のです。だから噂は聞かない、とは小林旭の歌です。

この10月から、米国の経済が破綻状態になり、風評被害もあるのだろうが日本にも飛び火して、とくに自動車や電化製品などの会社において、派遣社員など非正規社員の馘首が社会問題化するように

なった。この師走の押し迫った時期に仕事は奪われるわ、住居も追われるわ、どうやって生きろというのか。・・・政府もひとり数万円を配るなどと悠長なことを言っておられなくなった。もともと、米国の「バブルがはじける」のは何ヶ月も何年もまえから予測されていたことではないか。そのときに対する対処をまったく考えていなかったとしたら、**この国には政治はない。**

食と住には1週間後1ヵ月後にはというのではない。毎日が戦いである。非正規社員が狙われるのは、弱いところから狙うという方法である。個人に対して言うのではなく、派遣会社に宣言するだけですむからで、まあ、血も涙もないやり方ではある。正規社員といっても、10人もいればひとりや2人は、いうところのカスもおるやろ？ 仕事をしているようでいて実は邪魔をしているようなのが。そんなのを遣して（つまりは組合がうるさいから）本当に仕事のできる優秀な人かどうかの判断もせずに辞めさせるのが気に入らない。

儲かっているときには安い給料でこき使っておいて、利益は自分の懐にいれ、いざ目減りしそうになると手の裏（掌）かえして、切り捨てていく。背景も考えず、この日がくることをある程度予測しながら（しなかったらアホや）・・・どこかにあったような話。